

### 熊谷総合病院 新任常勤医師のご紹介



【放射線科診療部長】  
湯浅 昌之

#### ●放射線科医師着任のお知らせ●

資格	専門分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線科診断専門医</li> <li>放射線研修指導医</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CT・MRIなどの画像診断</li> </ul>
ご挨拶	

平成3年に医師になってから、25年間埼玉県内の医療機関に従事してまいりました。今回御縁があり、熊谷総合病院で勤務することとなりました。画像診断の進歩、発展は著しく、毎日多数の症例を読影しております。正確な診断ができるよう日々努力しております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 知って！ 聞いて！ 見て！ くまそうの取組み

今後、基幹型臨床研修病院として、研修医の育成に関する体制をさらに整備し、埼玉県北部地域で医療を学び、地域医療に貢献したいという医師が増えるよう努めてまいります。



【研修発表会の様子】

平成30年2月16日（金）に、研修医6名による症例発表会を開催しました。研修医からはこれまでに経験した貴重な症例や研修で得た成果などが発表され、指導医や上級医との意見交換が活発に行われました。

共に学び・共に育つ  
研修医症例発表会を開催

患者さんが医療機関を選ぶ時代になったいま、病院職員は患者さんが求める接遇について考え、必要がありまます。参加した職員は、患者さんに信頼を与える話し方や誠意が伝わる電話マナーについて熱心に聞き入りました。  
(接遇を考える会事務局 内山)



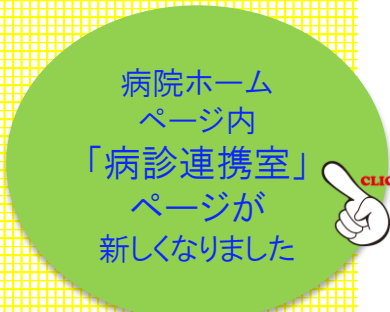
【質疑応答で質問する中村院長】

「ぬくもりのある患者接遇」  
「熊谷総合病院接遇を考える会」は、平成30年1月18日・2月14日に接遇研修会を開きました。接遇研修会は職員の接遇知識、技術の向上を目的として毎年行っています。今回の研修会では「ぬくもりのある患者対応」をテーマに、医師を含め職員133名が参加しました。

## 地域医療連携室からのお知らせ

#### 外来診療の事前予約可能な診療科

- 内科（がん・膠原病・糖尿病・腎臓）
- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 整形外科
- 泌尿器科
- 婦人科腫瘍外来



#### ご利用いただける共同検査機器

- 放射線機器
- CT（単純/造影）
  - MRI（1.5T/3.0T）（単純/造影）
  - MRCP
  - RI（骨・腎・脳血流・ガリウム等）
  - 骨塩測定
- 生理検査機器
- 甲状腺エコー
  - 心臓エコー
  - 下肢静脈エコー
  - ホルター心電図
  - トレッドミル

# 各診療科の取り組みと特徴

地域連携室では、地域の医療機関の皆様と「顔の見える関係づくり」を目指し、当院の各診療科における特徴や取り組みを随時ご案内させていただきます。患者さんのご紹介、診療内容や治療についてのご相談などがございましたらお問い合わせください。

## 眼科



(右) 河西 雅之 眼科部長  
日本眼科学会専門医  
平成9年 聖マリアンナ医科大学卒業。

(左) 石川 聖 非常勤医師  
日本眼科学会専門医  
専門：涙道／涙液／ドライアイ、前眼部疾患

### 眼科部長 河西 雅之

平素より地域の諸先生方のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。  
お蔭をもちまして、熊谷総合病院眼科診療部長として平成29年3月より着任し、1年が経過いたしました。

当科では、白内障・緑内障などの一般的な眼疾患の診断・治療の他に、網膜剥離・糖尿病網膜症・網膜硝子体出血・角結膜疾患・涙道疾患・斜視・弱視などの診療も幅広く行っています。

現在の診療体制は、常勤医1名、埼玉医科大学病院から非常勤医師として3名、視能訓練士（O R T）3名で診療にあたっております。視能訓練士（ORT）は、視力・眼圧等の眼科一般検査以外に、静的・動的視野検査、斜視・眼球運動検査、ERG（網膜電図）、色覚検査など、様々な特殊検査にも対応可能です。

私の理想の医療は、心が軽くなり笑顔でスキップして帰っていただけるようになることです。その為に、治療に関しては納得のいくまで丁寧にご説明し治療に臨んでいただけるよう心掛けております。これまで培ってきた技術と臨床経験を生かして、一人ひとりの視力回復の「質」を高める医療をこの地域で皆様にご提供していきたいと存じます。

### 当院で実施している主な手術・治療法

白内障手術	白内障手術については、日帰りまたはご希望の方は1泊の入院手術を行っています。全身管理が必要な方にも対応が可能です。ご紹介いただいてから2～3週間先の手術日程を予定します。 また、埼玉県内では4施設目となる新たな機器として、アルコン社製のVERIONイメージガイドシステムを導入しております。これによって手術時にもイメージガイドシステムとの連携が可能となり、患者様にとって精度の高い治療をご提供できるようになっております。
緑内障手術	薬物療法やレーザー治療を行っているにもかかわらず、眼圧が下がらなかつたり、視野が狭くなる場合に手術を適応しています。入院期間は7～10日程度です。
硝子体手術	平成29年9月より新たな手術機器を導入し、硝子体手術が可能となっております。 網膜・硝子体の組織が炎症や出血をすると、その機能が失われ、網膜を牽引して網膜剥離となつたり、様々な疾患を引き起こす原因となります。当科では、より低侵襲である細い25ゲージの器具を用いて、結膜を切ることなく手術を行うことを可能とした機器を導入いたしました。器具を差し込む入り口が非常に小さいため、術後の回復も早く、目の違和感や炎症を大幅に軽減することができます。最短4泊の入院手術で、手術時間は、症例に応じて30分～1時間30分程度です。
抗VEGF薬 (生物学的製剤) 治療	糖尿病網膜症や網膜動静脈閉塞など網膜の血管性疾患、加齢黄斑変性を代表とする黄斑部疾患では、網膜上の血流悪化によって血管から血液やその成分が漏出すると、網膜の中心に位置する黄斑に黄斑浮腫と呼ばれるむくみが発生して、深刻な視力障害をもたらすことがあります。また、悪化した血流を補うために新生血管と呼ばれる血管が発生して、網膜に重篤な病気を招くこともあります。 抗VEGF薬治療は、これらの誘因となるVEGF（血管内皮増殖因子）の働きを抑える抗VEGF薬（抗血管新生薬）を眼球内に注射して、血管からの漏出や新生血管の発生と成長を抑制する治療を行っています。

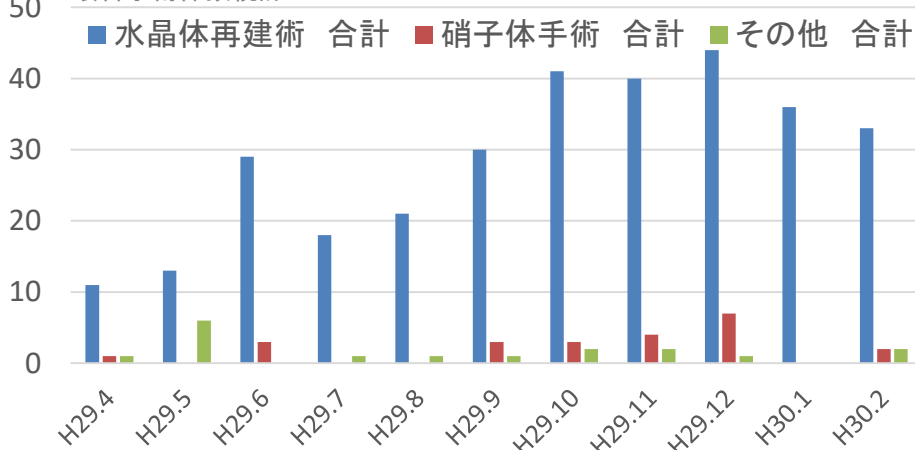
#### <非常勤医師ご紹介>



尾崎 公威 非常勤医師

当院では、主な眼科疾患全般について診療。  
木曜日の午前・午後を担当していただいています。

#### 眼科手術件数統計



眼科		月	火	水	木	金	土	
		午前	河西	河西		河西	河西	
				石川	吉川	尾崎		
午後	河西		吉川	尾崎	河西			

わたしたちの  
職場  
紹介

居宅介護支援事業所  
— リアン —

居宅介護支援事業所 リアン  
主任ケアマネージャー 渡辺 敬子

平成28年5月1日 「熊谷総合病院居宅介護支援事業所」から「居宅介護支援事業所リアン」へと名称を変更しスタートした当事業所は、現在3名の介護支援専門員が勤務しており、主任介護支援専門員を中心としてチームワークも抜群です。

当事業所は、病院や訪問看護ステーションと併設ということもあり、その最大の特色は、退院支援の段階から医療連携ができるという点です。当事業所へのケアプラン作成依頼の約7割は熊谷総合病院からですが、その内訳は、骨折や脳血管障害からの回復期が約2割、末期がん等のターミナル期が約3割、その他は急性期や一般病棟からの退院時や外来時となっています。

MSWや看護師、リハビリ担当と情報を共有できることは、ケアマネジメントプロセスにおいても非常に重要です。退院後も必要に応じて連携が取れる体制にあり、これは居宅介護支援事業所としての強みだと思います。

一方当院以外では、近隣の医療機関や地域包括支援センターからの依頼、本人や家族からの相談とさまざまですが、やはりターミナル期の依頼が多いことが特徴です。

機能強化型

訪問看護ステーション  
— フェリーチェ —

訪問看護ステーション フェリーチェ  
科長 高橋 嘉子

わたしたちの  
職場  
紹介

当訪問看護ステーション フェリーチェは、365日・24時間体制で在宅療養の患者さんの支援を行っております。訪問看護の知識・経験にたけたスタッフが、熊谷地域25医療機関の先生方による訪問看護の依頼に対応しております。特に当ステーションへは、がんの終末期の患者さんの訪問看護のご依頼を多くいただいております。全体の約1/4以上を占めています。

また、私たちは、患者様やご家族が自分らしく、安心して過ごしていただくためにICTを活用しながら主治医やケアマネージャーなどの多職種と常に密な連携を取りあっています。24時間体制で、緊急時には夜間でも対応致します。医療依存度の高い患者さんを、この地域で支えていくためには、訪問看護は欠かせないので存在です。在宅看護のスペシャリストとしてそういった方々の看護にスタッフ一同努めて参ります。

熊谷総合病院内に事業所をもち、居宅介護支援事業所と併設していることが強みである当ステーションへまずはご相談いただければと思います。訪問看護ステーション フェリーチェを今後とも宜しくお願い致します。

お問い合わせは  
居宅介護支援事業所 リアン

TEL: 048-525-6725

がんの末期や、医療依存度の高い利用者の支援には医療との連携が欠かせませんが、同時に介護支援専門員自身のスキルが問われます。病院併設といっても当事業所の介護支援専門員の基礎資格は、必ずしも医療の専門職ではありません。疾病についての知識や予後予測には日々の学習はもちろん、経験と実績が必要です。当事業所では定期的にカンファレンスを行い、お互いの経験を共有しながら自己研鑽に努めています。

医療連携の課題は、専門職とのコミュニケーションにあるのだと思います。専門用語の飛び交う中、多くの福祉系介護支援専門員が日々奮闘している現実をどうぞご理解いただき、今後とも医療介護連携にご協力いただきますようお願い申し上げます。



居宅介護支援事業所リアン・訪問看護ステーションフェリーチェスタッフ一同  
病院正面玄関すぐ横に事業所を構えています。それぞれの専門性を発揮し、日々カンファレンスや情報共有を行っています。

お問い合わせは  
訪問看護ステーション フェリーチェ

TEL: 048-520-3911

TOPICS



訪問看護ステーション  
フェリーチェ  
科長 高橋 嘉子

「埼玉県看護功労者知事表彰」  
受賞決定！

看護職員としてその業務に長年励み、その功績をたたえられ、「埼玉県看護功労者知事表彰」の受賞が決定いたしました。2018年5月に表彰式が行われます。

『かかりつけ医』  
を持ちましょう。

当院は、逆紹介(かかりつけ医への紹介)を推奨しており、近隣の医療機関「かかりつけ医」と連携・協力して皆様の健康を守っていきます。



当院では、紹介・逆紹介を推進してまいります。

当院は、急性期対応病院として「地域医療連携」を推進しております。地域の診療所・病院からご紹介していただいた患者さんの検査・手術・治療を中心に医療を行い、症状が落ち着いた場合には紹介元の診療所・病院に逆紹介し、治療を継続していただくことを推奨しています。

当院で逆紹介ののち、患者さんの定期的な検査や入院の必要性が生じた場合は、再度ご紹介いただき対応させていただきます。

急性期医療を中心に行う病院として、地域の診療所・病院の先生方と協力して、患者さん中心の医療を目指していきたいと思っております。どうぞご理解くださいますようよろしくお願い致します。